

解説

グラウンドマンホール 夢の途中

はらくち やすひろ
原口 康弘

日之出水道機器(株)
経営本部長
取締役常務執行役員

1 推進工法日本チームとの出会い

私が今、新たな夢を追いかけているのは、8年前の2015年2月に海外（ベトナム）に向け推進工法の普及にチャレンジする若者達に出会ったことから始まっています（写真-1）。



写真-1 若き勇士たちとの初昼食（ハノイ2015年：フォー）

彼らの熱意はこれまでの常識の延長線上ではなく、自分達の使命や想いを実現してゆく志、その想いを現実にするために具体化させようとする意志、さらに具体化へポジティブ&アクティブな行動力に満ち溢れていました。

このような若者との出会いから、自然と私も推進工法普及の日本チームの一員として活動することになり、当時マンホール蓋領域での新たな活動とチャレンジが始まったことも記憶に新しいです（写真-2）。



写真-2 マンホール蓋モデル施工（ハノイ2016年：日本大使館前）

この出会いから私は、ベトナム建設省および政府系機関、JICA ベトナム事務所、ハノイ市、地元民間企業などとのコンタクトができ、JICA 案件化調査の採択からベトナム政府関係者を日本招聘することで、国内外での様々な人との出会いがあり、そのつながりと絆により私の活動は常に新鮮かつ新たな気づきの連続でした。

これまでの国内では、どちらかと言うと自社単独もしくは業界内だけの連携程度でしたが、推進工法日本チームは、日頃会話することもない異業種の企業連携や新しい産学官連携での海外活動でした。この日本チームは、実現すべき姿（夢）と成果（実現）を出すために、相互に汗を流し協働してゆく垣根のない新しい連携の姿であり、これから求められる新しいビジネススタイルとして、私は身を持って体験した出来事であったことを思い出します。

2 グラウンドマンホールのこれまで

令和の時代に入り、私は日本グラウンドマンホール工業会（JGMA）の会長に就任し、今、新たな夢に向けて活動を始めました。

現在、日本国内のグラウンドマンホール（マンホール蓋）は、平成時代での大規模な下水道事業投資を含め全国に約1600万個設置されています。これまでの下水道事業成長期でのマンホール蓋業界は、マンホール蓋の様々な設置環境や気象環境に対する安全機能の開発促進、さらに急激な事業成長を支えるマンホール蓋の品質確保と供給責任を果たしてきました。当時の私達は、日本のライフライン事業の普及と発展に向けて、ものづくりでの多くの技術開発や、全国的なビジネス展開への夢を描き突き進んできたように思います（写真-3）。



写真-3 見える下水道・路上の橋（JGMA）

ところがこのようなライフライン事業がピークを迎えると、急激に市場規模が縮小してゆく時代となり、平成時代の終盤には私達の事業展望や業界の活性化もなくなり、業界終焉の風を感じる状態でありました。しかしながら、このような市場縮小の時代も平成から令和に変わり始める頃、私達マンホール蓋業界は、新たな夢に向けて走り出していくことにしたのです。

まず私の夢への第一歩は、マンホール蓋業界の団体である「日本グラウンドマンホール工業会（JGMA）」は、平成3年に「任意団体」として設立され約30年間活動をしてきましたが、新たな時代感と将来展望をふまえて、令和2年に「一般社団法人」へと法人格の団体へ転換し、新たな事業展開を開始したことです。

何故、市場がシュリンクしている時にこのような構造改革をするのか、また新たな事業展望は望めるのかとの疑問もあるかと思いますが、マンホール蓋の将来の姿を様々な視座で考えると、全国にストックされている1600万個

のマンホール蓋は重要なライフライン資産であり、私たち業界の資産でもあります。このマンホール蓋資産は、将来に向けて多様なインターフェースとしての役割や機能が多く期待できることから、新JGMAへ構造改革をし「夢の扉」を開けることにしました（写真-4）。



平成から令和への視座 協創が導く新たな価値

写真-4 対談（2022年：協創が導く新たな価値）

3 グラウンドマンホール夢の広がり

では1600万個のマンホール蓋は、どのような役割や機能が期待でき、どのような夢（将来価値）を生み出せるのでしょうか（図-1）。



下水道に欠かせないグラウンドマンホールと下水道パイプラインの黎明期を『芽生えをイメージしたグリーン』で表し、下水道が整備され市民生活が豊かになる様子を『成長をイメージさせるブルー』で表し、下水道によって安心で安全な市民生活が実現されるイメージを『暖かいオレンジ』で表現しました。さらに市民生活を支えるグラウンドマンホールと下水道パイプラインが適切な維持管理によって無限に持続される様子を、『∞（無限大）を2つ重ね合わせ』で表現しました。

図-1 コンセプトデザイン

(1) グラウンドマンホール市場の創り変え

私たちの身近に存在する60cmの空間（マンホール蓋）は、3つのコンセプトデザイン（図-1）にその役割と機能を表現しています。この役割と機能をさらに時代感にマッチさせるために、現在の1600万個のストックに対してDX技術の進化と深化から、ソサエティ5.0社会で必要となる新たな機能を創出して更新していく。つまり「長寿命 & 環境負荷を実現する構造・機能」と「IT&AI